

大伴旅人の漢詩と倭歌

〔注解と解説〕

辰巳 正明

一、はじめに

大伴旅人は『万葉集』の歌人であると同時に、『懷風藻』に漢詩を一首残す詩人でもある。このような歌と詩を兼ねる作者はそれほど多くはないが、天武・持統・文武朝には大津皇子・川島皇子・文武天皇あるいは藤原史などがあり、奈良朝には長屋王・大伴旅人・境部王あるいは山田三方などの歌人たちが漢詩に関わっている。この両者を兼ねる作者の作品は、当然のことながら詩を基本として倭歌へと向かうことに特徴がある。大伴旅人の詩と歌もそのような枠組みの中にある。そのことを具体化するために、ここでは旅人の二つの作品を注解という方法によって解説を試みたい。

二、大伴旅人の漢詩〔注解と解説〕

從二位大納言大伴宿祢旅人一首。年六十七

五言。初春宴に侍る。一首。

寛政の情は既に遠く、迪古の道は惟れ新し。穆々たる四門の客、
濟々たる三徳の人。梅雪残岸に乱れ、烟霞早春に接す。共に遊
ぶ聖主の沢、同じく賀す撃壤の仁。(四四)

五言。初春の公宴に畏まって参加する。一首。

政治の法律や刑罰を寛大にされた天皇の恵みの情はすでに遠い昔から続き、古い仕来りを踏襲する政治の方法はかえって新しい。四方の門から入ってくる美しく立派な姿の賓客、威儀を整えた智・仁・勇の三徳の人たちが春の宴会に参列する。梅花が雪のように散って池の岸边に乱れ、木々に掛かる靄は早春に連なっている。これらの客人たちは共に天皇の素晴らしい恩恵に預かり、我々は一緒にあって堯帝の時の老人のように楽器を撃って天皇の政治を言祝ぐことである。

從二位大納言大伴宿祢旅人一首。年六十七

五言。初春侍宴。一首。

寛政情既遠。迪古道惟新。穆々四門客。濟々三徳人。

梅雪乱残岸。烟霞接早春。共遊聖主澤。同賀撃壤仁。

【校異】

○題の「一首」なし(天和本・宝永本・寛政本)。○迪古道惟新(天

和本・宝永本・寛政本)。

【注釈】

○**従二位** 大宝律令の官位。二位は正と従の二階。○**大納言** 太政官の左右大臣に次ぐ官職。○**大伴宿祢旅人** 天智四(六六五)年—天平三(七三二)年。馬飼の孫、安磨の子。家持・書持の父。坂上郎女の異母兄。和銅三(七一〇)年一月正五位上左將軍、同四年四月従四位下、靈龜元(七一五)年一月従四位上、同五月中務卿、養老二(七七八)年中納言、神龜四年末頃に大宰帥として下向、天平二(七三〇)年十二月兼大納言により帰京、同三(七三二)年一月従二位、同七月没。大宰府時代に筑前の守の山上憶良と詩歌の交流をする。長歌一首、短歌七十首を残す。『続日本紀』天平三年七月条に「大納言従二位大伴宿祢旅人薨。難波朝右大臣大紫長徳之孫。大納言贈従二位安麻呂之第一子也。」とある。○**五言** 一句が五字からなる詩体。○**初春** 春の初め。春の初めには宮廷の宴が行われた。漢詩に「初春」の詩題がある。「楽府相和歌辞平調曲」「燕歌行」に「初春麗日鶯欲嬌」とある。「陳詩」張正見の「初春賦得池応教詩」に「遙天收密雨。高閣映奔曦。雪尽青山路。冰銷緑水池。春光落雲葉。花影發晴枝。琴樽奉終宴。風月豈云疲。」と詠まれている。『万葉集』巻五に「初春令月」とある。○**侍宴** 天皇の宴会に畏まつて参列すること。『文選』顔延之に「侍宴」の詩がある。○**首** 詩歌を数える単位。○**寛政** 寛大な政治。天子の恵みをいう。厳しい

決まりや刑罰を緩やかにすることを指す。「迪古」と対。『文選』盧子諒「贈崔温詩」に「羈旅及寛政」とあり、注に「君之恵」とある。○**情** 慈愛の情をいう。○**既遠** すでに遠くから続くこと。『文選』鮑明遠「舞鶴賦」に「踐神区其既遠積靈」とある。○**迪古** 古の徳を踏襲すること。迪も廸も同じ意。『文選』陸士竜「贈馮文罷遷斥丘令」の「迪」の注に「孔安国曰、迪踏也。言信踏行古人之徳」とある。○**道** 政道。○**惟新** 世が改まったこと。周の文王・武王の革命を示唆する。維新に同じ。惟は発語。『尚書』商書に「惟新厥徳。終始惟一。」とある。『晋書』の「礼」に「王化惟新、誠宜崇明禮訓」とある。『文選』潘安仁「西征賦」に「旧邦惟新」とある。「楽府郊廟歌辞晋郊祀歌」「饗神歌」に「天祚有晋、其命惟新」とある。○**穆々** うやうやしいこと。濟々と対で優れていることをいう。『文選』潘正叔「贈陸機出為吳王郎中令」に「穆穆伊人。南国之紀」とある。「楽府燕射歌辞齐太廟樂歌」「明德凱容樂」に「其容穆穆、其儀濟濟」とある。○**四門客** 四方から来た客人。四門は東西南北の門。優れた王の噂を聞いて、諸国から使いが来ることをいう。『懷風藻箋註』は「書、四門穆々、孔伝穆々美也」をあげる。杉本『懷風藻』は「左伝」文公十八年「四門穆穆」をあげ、『唐書』の「四門学」を指摘する。古典文学大系『懷風藻』は「孔子伝」「穆穆、美也、四門、四方之門」をあげる。「楽府燕射歌辞」「周五声調曲宮調曲」に「穆穆四門賓」とある。○**濟々** 威儀あり盛んな様をいう。『懷風藻箋註』は「詩」

大雅の「濟々多士文王以寧。毛萇曰濟々盛也」をあげ、『懷風藻註
釈』は「書」臯陶謨の「濟濟有衆、感聽朕命」をあげる。「樂府燕
射歌辭齊太廟樂歌」「明德凱容樂」に「其容穆穆、其儀濟濟」とあ
る。○三徳人 正直、剛毅、柔軟などの徳を備えた人。『尚書』「洪
範」に「三徳。一曰正直。二曰剛克。三曰柔克」とある。「樂府郊
廟歌辭漢郊祀歌」「靈芝歌」に「象三徳兮瑞応凶」とある。○梅雪
白梅を雪に喩えた。梅の白と雪の白とを合わせて紛れの表現を意
図。「烟霞」と対で早春の風光を言う。「樂府橫吹曲」「梅花落」に
「金闈怨早梅。雪中花已落」とある。「陳詩」江総の「梅花落」に「胡
地少春來。三年驚落梅。偏疑粉蝶散。乍似雪花開。」とある。○乱
残岸 池の崩れた岸辺に散っていること。「残岸」は漢語として未見。
崩れた岸で「缺岸」と同じか。「梁詩」簡文帝の「山齋」に「缺岸
新成浦。危石久為門。」と見える。○烟霞 靄をいう。『玉台新詠』「巫
山高」に「烟霞乍舒」とある。○接 接続すること。○早春 春の
初め。「齊詩」王融の「芳樹」に「相望早春日、煙華雜如霧」とあ
る。「北周詩」宗懔「早春詩」に「昨暝春風起。今朝春氣來。鶯鳴
一兩嚶。花樹數重開。」とある。○共遊 賓客たちと一緒に宴遊す
ること。「魏詩」阮籍「詠懷詩」に「高鳥摩天飛。凌雲共遊嬉。」と
ある。○聖主 優れた主人。ここでは天皇。民を慈しむことが聖主。
『文選』楊子雲の「長楊賦」に「蓋聞聖主之養民也」とある。「樂
府鼓吹曲辭吳鼓吹曲」「閔背徳」に「巍巍夫聖主」とある。○沢

恩沢。天皇の恩恵をいう。『文選』楊子雲「甘泉賦」の「麗万世」
の注に「言恩沢之多若雲行雨施君臣皆有聖徳。故華麗至万世也」と
ある。『文選』班孟堅「兩都賦序」に「王沢竭而詩不作」とある。「樂
府燕射歌辭晉四廂樂歌」「食拳東西廂樂詩」に「流沢被無垠」とある。
○同賀 同じく言祝ぐこと。「樂府晉朝饗樂章」に「同賀聖明朝」
とある。○擊壤仁 『論衡』に堯帝の時に老人が樂器の壤を打って
堯の深い仁徳を褒め称えた故事が載る。『懷風藻箋註』は「如堯時
賀擊壤者之蒙仁沢也」といい、『懷風藻註釈』は「十八史略」の「有
老人、含哺、鼓腹擊壤而歌」をあげる。この歌は「日出而作、日入
而息、耕田而食、鑿井而飲。帝力何有於我哉。」とある。「樂府郊廟
歌辭晉江左宗廟歌」の「歌世祖武皇帝」に「野有擊壤、路垂頌声」
とある。「全唐文」盧照鄰の「樂府雜詩序」に「知小雅之歆娛。擊
壤堯。」とある。

【解説】

大伴旅人の初春に行われた公宴に侍して詠んだ詩。五言律詩体詩。
韻は新・人・春・仁。聖天子が行う政治は遠い昔から続き、それを
踏襲する今の天子の政治も新たなものと称賛し、それゆえに天子
のもとに四方から優秀な人材が慕い集まり、勝れた徳を備えた賢人
たちも天子のもとに集まるのだという。「四門客」や「三徳人」は、
聖天子を慕い称賛するためにやって来た詩人・文人たちである。「惟
新」は『尚書』に見える語で、「これ新たなり」の意であり、周の

文王・武王が殷を平定した革命を讃える語である。殷周革命により世が改まったことを指す。ただ、天皇の制度の上では易姓革命を取らないので、天皇は古くからの天皇の道を受け継ぐのだとする。それで人々は聖主の恩恵に遊び、堯帝の民と等しく太平を喜ぶのである。堯帝の時代の政治を理想とするのは、この時代の知識人たちの一つの教養である。「梅雪乱残岸」は、白梅と白雪との重ねを美学として楽しむ表現であり、『万葉集』の旅人の歌に「わが園に梅の花散るひさかたの天より雪の流れ来るかも」（巻五・八二二）と詠まれていて、趣向は同様である。白梅と白雪とが重なる紛いの表現が、詩歌においてモダンな表現として流行する。また、旅人には『万葉集』に吉野行幸の時の歌があり、「見吉野之 芳野乃宮者 山可良志 貴有師 水可良思 清有師 天地与 長久 万代尔 不改将有 行幸之宮」（巻三・三二五）とあり、吉野の宮は山は貴く水は清く、天地と共に長く久しく、万代に変わらぬにあるのだという。

この旅人の侍宴の詩は公宴に詠まれた詩であり、そのため詩形式が十分に熟慮され中国の古典を正しく踏まえ、十全に調えられていることが知られる。その一は、「寛政情既遠。迪古道惟新。」という天子の恵みへの賞讃であり、その二は、そうした聖天子のもとに「穆々四門客。濟々三徳人。」という優れた人材が集うことへの賞讃であり、その三は、聖天子の廻らす季節は正しく春を廻らし「梅雪乱残岸。烟霞接早春。」のように美しい春の到来したことを賞讃

し、その四に、「共遊聖主澤。同賀擊壤仁。」のように聖天子のもとで天子の恩恵に預かり撃壤の仁を賀すのだと賞讃する。これが旅人の侍宴詩における天子賞讃の表現であるが、これらには「寛政」と「迪古」、「遠」と「新」とを対句とし、「穆々」と「濟々」、「四門客」と「三徳人」を対句とし、「梅雪」と「烟霞」、「乱残岸」と「接早春」を対句とし、「共遊」と「同賀」、「聖主澤」と「擊壤仁」とを対句とする。つまりこの詩はすべての句が対句仕立てによって調えられているのである。侍宴詩のモデルのような詩であり、ここには公宴に詩を奏上する旅人の熟考した文章力が認められるであろう。

三、大伴旅人の倭歌〔注解と解説〕

暮春の月に、芳野の離宮に幸しし時に、中納言大伴
卿の、勅を奉じて作れる歌一首〔并せて短歌、未だ
奏上を逕ざる歌〕

み吉野の 芳野の宮は 山からし 貴く有らし 水からし
清けく有らし 天地と 長く久しく 万代に 改はらず有ら
む 行幸し処（巻三・三二五）

反歌

昔見し 象の小河を 今見れば 弥清けく 成りにけるかも
（巻三・三一六）

暮春の月、芳野離宮に行幸があった時に、中納言大伴卿が、勅を承って作った歌の一首〔并せて短歌、未だ奏上を經ていない歌〕

み吉野の、この芳野の宮は、山としての性質からか、貴くあるようだ。水としての性質からか、清らかにあるようだ。天地と共に、長く久しくあることであろう、万代にも、変わらずにあることだろう、天皇の行幸されるこの処は。

反歌

かつて見た、象の小河を、今見ると、いよいよ清らかに、成ったことである。

暮春之月、幸芳野離宮時、中納言大伴卿、奉勅作〔一云、并短歌、未逕奏上歌〕歌一首

見吉野之 芳野乃宮者 山可良志 貴有師 水可良思 清有師 天地与 長久 万代尔 不改将有 行幸之處

反歌

昔見之 象乃小河乎 今見者 弥清 成尔来鴨

【校異】

○「水」底は「氷」。類聚古集らによる。

【注釈】

○暮春之月 暮春の月は春三ヶ月の最後の月。季春。○幸芳野離宮時 「幸」は天皇が各地を廻つて天下に恩徳という幸を与える行為。

神亀元（七二四）年三月一日から五日の吉野行幸を指す。二月に元正天皇から聖武天皇への讓位があった。新天皇としての最初の行幸。

○中納言大伴卿 中納言は太政官の次官。従三位相当。大伴卿は大伴旅人。天平三（七三一）年七月没。大宰府時代に筑前守の山上憶良と詩歌の交流をする。長歌一首、短歌七十首を残し、『懷風藻』に漢詩一首を残す。前章参照。○奉勅作并短歌 「奉」はおしいただく意。「勅」は天皇の命令。応詔の歌を指す。「短歌」は長歌に付属して長歌の主旨を述べる形式の歌。短歌体が主であることによる。

反歌を指す。○未逕奏上歌一首 「未逕奏上歌」は奏上を經ていない歌。天皇の命はあつたが奏上の機会がなかったことの自注。○見吉野之（み吉野の） 「見」は見て好い吉野と続く。吉野は奈良県

吉野郡の地。宮滝があり離宮が生まれ、山紫水明の神仙境とされた。持統天皇は在位中に三十一回の吉野行幸を行っている。○芳野乃宮者（芳野の宮は） 「芳野」は吉野の好字。宮は吉野離宮。宮滝の近

傍に営まれた。○山可良志（山からし） 山の性質によることをいう。

「可良」は柄で物の性質。山の性質は『論語』雍也の「子曰、智者楽水、仁者乐山。智者動、仁者靜。智者楽、仁者寿」に基づくもので、仁者が山を楽しむのは山は仁という徳と見なされたことによる。儒

教的自然観の基本。山水仁智という。○**貴有師**（貴く有らし） 貴くあるようだ。「有師」は「あるらし」の約音。確実なことへの推測。○**水可良思**（水からし） 川の性質によることをいう。「可良」は柄で物の性質。水の性質は山の性質と均しく、『論語』の山水仁智に基づき、水は智者の徳と均しいとされた。儒教的自然観の基本。○**清有師**（清けく有らし） 清らかにあるようだ。「有師」は「あるらし」の約。○**天地与長久**（天地と長く久しく） 天地と等しい永遠をいう。「魏詩」（卷九）嵇康の「四言贈兄秀才入軍詩」に「人生寿促。天地長久。」とある。『老子』の「天長地久」による。○**万代余**（万代に） 天皇の世の永遠をいう。「全晋文」（卷八十）温嶠の「諫太子馬射」に「忘万代之基」とある。○**不改将有**（改はらず有らめ） 万代不改をいう。「全漢文」（卷十六）賈誼の「過秦論」に「二世受之。因而不改。」とある。「将有」は「將に有らんとす」。今後もこのように有るだろうの意。○**行幸之處**（行幸し処） 天皇の行幸は天を敬し民を重んじ、天子の徳を天下に恵むことにある。それで幸という。「處」を「宮」とする写本もあり「行幸の宮」とする。○**反歌** 長歌に付属して長歌の主旨を述べる形式の歌。ただし題詞の注に「短歌」とあり、長歌に付属する短歌とは性格を異にして接続は緩やか。○**昔見之**（昔見し） かつて作者が経験したことをいう。○**象乃小河乎**（象の小河を） 吉野の宮滝へ流れる吉野川の支流を指す。吉野の如意輪寺から宮滝へ至る山中を流れる。○**今見者**

（今見れば） 昔に対して今の象の小川をいう。○**弥清**（弥清けく） 「弥」はますます。○**成余来鴨**（成りにけるかも） 清くなったことへの感動。「鴨」は詠嘆。

【解説】

暮春の月、芳野離宮に行幸があった時に、中納言大伴卿が、勅を承って作った歌の一首と併せて短歌である。ただ、この歌は奏上を経ていない歌であるという。神亀元（七二四）年二月に元正天皇から聖武天皇への譲位があった。翌三月一日から五日にかけて新天皇としての最初の聖武天皇の吉野行幸が行われた。新しい天皇の誕生により宮廷は祝賀ムードで盛り上がっていたと思われ、新天皇を披露する宮廷を挙げての行幸が行われたのである。作者の大伴旅人は、前もって歌を献上するように命を受けたのであろう。しかし、それは献上には及ばなかったというのである。

天皇の行幸は天下に天皇の徳を宣布する儀礼である。『漢書』光武帝紀建元元年の記事の「己亥幸懷」の注に「天子所行必有恩幸。故称幸」とあり、蔡邕の『独断』には「天子車駕所至、賜以食帛、民爵有級、或賜田租。故謂之幸。行幸巡行也。」とある。また『芸文類聚』巡狩の引く「礼注」に行幸は「尊天重民」だとみえる。さらに『初学記』の巡狩には「左伝」を引いて「天子非展義不巡狩。杜預注云、天子巡狩、所以宣布徳義。」とある。天皇行幸の意味はこのようなところにあり、そのことから行幸儀礼の場で勅を受け

て詩歌を奏上することがいかに名誉であるかが知られよう。

天皇の詔を受けた旅人は、新天皇の即位を慶賀することのため、この時代の最先端を行く賀歌を目指したものと思われる。吉野は柿本人麿が持統天皇の行幸に従い、壮大な賀詞を二組も献上していた。吉野行幸に勅を承って歌を献上することは、極めて名誉なことであったのである。そのことを理解している旅人は、新しい時代思想を取り入れた賀詞を作り上げようとしたのである。その名も美しいこの吉野の宮は、「山可良志 貴有師」「水可良思 清有師」といった整然とした対句を用い、加えて「天地与 長久」「万代余 不改將有」というようにやはり対句を調べて祝福の辞を加える。それぞれを「山―水」「貴―清」「天地―万代」「長久―不改」のように、立派な対句仕立てにして、そのような天皇が行幸される吉野の宮だと称賛する。これはこの時代の儒教と老荘の哲学を取り入れて、天皇の永遠と吉野の宮の恒久を願ったのである。「山可良志 貴有師 水可良恩 清有師」は、『論語』雍也の「子曰、智者樂水、仁者樂山。智者動、仁者靜。智者樂、仁者壽」に基づくことは知られているが、それをここに写して吉野の山水の徳と天皇の仁智の徳を重ねたのである。川を水としたのは、「山水」に合わせたことによる。しかも、天皇の仁智の徳は『韓詩外伝』によれば「仁者何以樂山。山者万物之所瞻仰也」「夫水者緣理而行。不遺小。似有智者」というのであり、それはそのまま天皇の徳として称賛するのである。あ

るいは「天地与 長久 万代余 不改將有」は、『老子』によれば「天地久、天地所以能長且久者、以其不自生、故能長久」というように、聖人は自己の身を後にして民の身を先にするのであり、無私の生き方により長久となるのだというのである。まさに天子は無私の心により民を先にする政治を行う実践者であり、それゆえに吉野の宮は永遠不変の宮であると言祝ぐのである。しかし、この歌は奏上されなかつたという。奏上するにはそれなりの場と機会が必要であるが、その場も機会も無かつたのである。旅人はこの歌を書きとどめて、ともかく息子の家持に託したのであろう。

四、おわりに

大伴旅人の倭歌は漢詩・漢文が基本に据えられている。このような倭歌は奈良朝知識人文学の成立として捉えられる。奈良朝は遣唐使の時代であり、漢文学によって文化形成を遂げた時代である。そのような時代の背景を受けて大伴旅人の文学が生まれたのである。『懷風藻』に詩を残さない山上憶良にも、『万葉集』に漢詩が二首残されている。そのような漢文学を背景に憶良も旅人も倭歌へと向かつたのである。その理由を考えると、この時代の漢詩はまだ儀礼性の中にあつたからであり、個人の情を訴えるのは倭の言葉による歌であることを理解していたからである。それは旅人の漢詩と歌が

明確に語っている。ここに取りあげた詩と歌はいずれも儀礼の場に奏上されることが前提の儀礼の詩歌であるが、それらを除いた旅人の倭歌は個人の情を詠むものである。倭の歌とはそのような個人の情を訴えることを伝統として来たからであり、それは旅人の亡妻悲傷歌によって実現されている。

注

- 『懷風藻』の本文は辰巳『懷風藻全注釈』（笠間書院）による。
- 『万葉集』の本文・訓読は「西本願寺本 萬葉集」に基づき辰巳が作成した。以下同じ。
- 漢文文献は、「雕龍古籍全文検索」（台湾得泓資訊有限公司版）のデータベースによる。以下同じ。